

CHN260 中国語音声理解

2年 3,4クォーター

担当教員 永井 崇弘

授業形態 講義, 演習

アクティブ・ラーニング アクティブ・ラーニング科目

単位数 2

曜日・時限 木曜日・2時限

授業概要

この授業は「中国語Ⅰ」, 「中国語Ⅱ」で学習した発音の基礎, 基礎文法, 基本語彙を基礎に, 特に日本語環境にあって中国語学習の大きな課題となるヒヤリング能力の向上に重点をおいたものである。この授業では, まず「中国語Ⅰ」, 「中国語Ⅱ」で学習した発音の基礎の総復習を行うとともに, 音節構造に関連する中国語音声学の知識を得する。これらの学習を基礎に, 日常会話を含む短い中国語の聴き取りから始め, 漢語水平考試 (HSK) 1級, 2級の模擬問題の演習へと段階的に発展させて, 中国語 (共通語) のヒヤリング能力の向上をはかる。この授業の目標は, 音声で聴いた中国語を正確にピンインで表記できるようにすることと, 音声で聴いた中国語の意味を理解できるようになることである。そのため, 中国語の意味理解に関連する文法事項についても適宜説明を行う。なお, この授業が養成の目標としている具体的な中国語ヒヤリング能力は, 中国語検定試験 (中検) 4級 (低レベル), 漢語水平考試 (HSK) 2級 (低レベル) 程度である。

到達目標

- (1) 中国語の音節構造およびその構成要素 (声母, 韻母 (介音, 主母音, 韻尾), 声調) について正確な知識を習得する。
- (2) 発音された中国語の短文をピンインで正確に表記する。
- (3) 発音された平易な中国語の意味内容を理解する。
- (4) 中国語の発音において, 自己の苦手な部分を発見し, 矯正を行う。
- (5) 漢語水平考試 (HSK) 2級 (低レベル) 程度の語彙および文法事項を習得する。

先修科目

中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ

教科書・参考資料等

教科書

プリントを配布する。

辞書

倉石武四郎 1990. 『岩波中国語辞典』。岩波書店

参考資料

銭乃荣 2001. 『現代漢語 (修訂本)』。江蘇教育出版社

申小龍 2005. 『語言学綱要』。復旦大学出版社

陳昌来 2005. 『対外漢語教学概論』。復旦大学出版社

日下恒夫 2007. 『アタマで知り, カラダで覚える中国語の発音』。株式会社アルク

吉島茂・大橋理枝 2008. 『外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』。朝日出版社

古川裕監修 2010. 『新HSK (漢語水平考試) 受験ガイド』。株式会社アルク

楊凱榮・張麗群 2012. 『中国語へのアプローチⅡ 初級～中級編』。朝日出版社

関中研 2013. 『新ブラッシュアップ中国語ー初級から中級へー』。朝日出版社

授業の方法

この授業は演習形式を主として行う。受講者は, 担当者より事前に指示された箇所を予習として行ったうえで授業に臨むこと。授業では, 事前に行った箇所を改めて解きながら, 答え合わせを行うとともに, 間違えた箇所や間違え易い箇所を中心に, 音声および文法事項の説明を行って中国語能力の向上をはかる。

成績評価

この授業における成績評価は、(1) 予習課題と(2) 授業における質疑応答、(3) 期末課題を総合して評価する。

(1) 予習課題

受講者は毎回担当者より示された予習箇所について、事前に自己で問題を解いておくこと。その際に難しい箇所などの問題点を整理しておく。この予習課題は、授業において答えあわせを行う。

(2) 授業における質疑応答

授業では主にHSKの模擬問題の演習を行うが、答え合わせや解説において生じるピンインや音声学、文法、単語、内容に関連する知識等について、担当者は受講者に適宜質問を行い授業内容の理解度を確認する。

(3) 期末課題

この授業では漢語水平考試 (HSK) 2級 (低レベル) 程度の中国語の音声に対して、ピンイン化、漢字化を行い、さらに日本語訳をつけて、期末課題として提出してもらう。なお、音源はCDまたはMP3形式で配布する。

成績

- 20% 予習課題
- 30% 授業における質疑応答
- 50% 期末課題

授業スケジュール

第1回：授業概要の説明 (評価法も含む) , 漢語水平考試 (HSK) について (主要参考文献：陳昌来 2005, 古川裕監修 2010)

授業開始の冒頭にこの授業の進捗や内容、評価の方法、また持参物や課題のやり方などの受講に際しての注意点を確認する。また中国語の運用能力を測定する漢語水平考試 (HSK) の目的とその成立過程、各級の内容、HSK各級とその他検定試験とのレベルの換算方法について学ぶ。

第2回：中国語の特徴について (主要参考文献：錢乃榮 2001, 12~18頁) , 中国語の音節構造とそ の特徴 (主要参考文献：申小龍 2005, 74~83頁)

印欧語との比較を中心にして現代中国語の特徴について学び、これまで学んできた現代中国語とはどのような言語であるのかを理解する。また、意味を持つ音の最小単位である音節構造およびその構成要素 (声母、韻母 (介音、主母音、韻尾)、声調)、その表記法であるピンイン (成立過程や特徴) についての理解を深め、聴き取り演習の基礎とする。

第3回：中国語の音声のピンイン化 (ウォーミングアップ)

- (1) 中国語の音節表の見方、声調・単母音・複母音・鼻母音・子音の聴き取り演習
聴き取った音声のピンイン化を行い、自己の弱点の発見と克服を行う。
- (2) 単音節語・二音節語・三音節語・四音節語の聴き取り、短い単文の聴き取り演習
聴き取った音声のピンイン化するとともに、辞書等を用いて漢字化と意味の確認も行う。この作業一連の作業に習熟して第4回以降の演習に備える。

第4回：日常会話の聴き取り (自己紹介・道を尋ねる・訛りについて・タクシーで) 演習

聴き取った音声の内容について平易な中国語で質疑応答を行うとともに、聴き取った音声のピンイン化、漢字化を行う。

第5回：新漢語水平考試 (HSK) 一級の模擬問題 (ヒヤリング部分) 演習 (第一題)

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う。

第6回：新漢語水平考試 (HSK) 一級の模擬問題 (ヒヤリング部分) 演習 (第二題)

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う。

第7回：新漢語水平考試 (HSK) 一級の模擬問題 (ヒヤリング部分) 演習 (第三題)

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う。

第8回：新漢語水平考試 (HSK) 一級の模擬問題 (ヒヤリング部分) 演習 (第四題)

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う。

第9回：新漢語水平考試（HSK）二級の模擬問題（ヒヤリング部分）演習（その1）

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および解説を新しい事項についてはその習得を行う（第一部分および第二部分）。

第10回：新漢語水平考試（HSK）二級の模擬問題（ヒヤリング部分）演習（その1）

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う（第三部分）。

第11回：新漢語水平考試（HSK）二級の模擬問題（ヒヤリング部分）演習1（その1）

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う（第四部分）。

第12回：新漢語水平考試（HSK）二級の模擬問題（ヒヤリング部分）演習（その2）

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う。（第一部分および第二部分）。

第13回：新漢語水平考試（HSK）二級の模擬問題（ヒヤリング部分）演習（その2）

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う（第三部分および第四部分）。

第14回：新漢語水平考試（HSK）二級の模擬問題（ヒヤリング部分）演習（その3）

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う（第一部分および第二部分）。

第15回：新漢語水平考試（HSK）二級の模擬問題（ヒヤリング部分）演習（その3）

事前に行った課題の答え合わせとともに、問題文の内容、ピンイン、文法事項、単語について、確認および新しい事項についてはその習得を行う（第三部分および第四部分）。

事前・事後学習

事前学習として担当者より指示された箇所の問題を解いておくとともに、疑問点などを整理しておいでください。事後学習としては答え合わせの際に間違った問題を再度解き、取りこぼしのないようにしてください。不明点が残る場合は次回の授業等で必ず質問をしてください。